学長室から
MESSAGE

創立40周年を迎えて

本学は新構想の教育大学として昭和53（1978）年10月に創立以来、今年40周年を迎えます。大学院学校教育研究科の修了生総数は9,656名、学校教育学部の卒業生は6,141名、また連合学校教育学研究科（博士課程）では学位取得者が438名となりました。この間、教育実践学の確立を目指し、着実に日本の教育界の進展に寄与してきました。

本学広報誌「教育子午線」の創刊号は平成13（2001）年12月に発行されています。当時、新企画で誌面はフルカラー、年2回発行という意気込みでスタートし、本号が第47号となりました。それ以前には昭和55（1980）年7月に創刊された「学園だより」という広報誌があり、「教育子午線」第8号発行までの間、並行して発刊されていました。「教育子午線」が本学唯一の広報誌となったのは、平成17（2005）年度からです。それとともに発行は年3回、ページ数も12ページから16ページに増加しました。

今回、創立40周年を迎えるにあたり、改めて本誌の広報誌としての存在意義や、創刊時の目的を果たしてきたかを問い直すため、本誌創刊に関わった中洌正堯元学長に登場していただきました。当時の本学の様子や課題を対談の中で語っていただいています。

私自身は昭和60（1985）年10月の着任ですから、これまでの兵庫教育大学の歴史を約33年間見てきたわけです。この間、特に平成16（2004）年の法人化以降の国立大学の変化はあらゆる面で著しいと感じています。教育大学にとっては同時に、教育・学校・子どもを取り巻く急速な社会の変化と対応しています。今改めて「教育子午線」を読み返すと、テーマや内容が社会の変化をよく反映しています。変化の中で大学院に関しては平成20（2008）年の教職大学院の設立と来年度からの拡充が本学のミッションの中で最も重要です。また学部では入試改革に関して、来年度からこれまでの入試方法を根本的に見直すことにしました。博士課程は23年目を迎え、現在の4大学構成体制を6大学構成体制に拡張する予定です。また、学生の生活環境についても改善を重ね、施設等は法人化以前と比べ著しく変化しました。まだまだ大学改革の途中ですが、40周年という節目を迎えて、来るべき50周年に向けて本学のあるべきビジョンを示すことが私に課せられた使命であると考えています。

学長 福田光完（ふくだ みつひろ）